


陳 情 文 書 表

受 理 番 号	第 8 号	受 理 年 月 日	令 和 6 年 8 月 3 0 日
件 名	桃園第二小学校の改築に際し、環境と地域の要望を踏まえた校庭の仕様を求める陳情		
付 託 委 員 会	子ども文教委員会		
提 出 者	桃園第二小学校の人工芝化について検討する会 		

(主 旨)

現在、桃園第二小学校において、様々な懸念から「校庭の人工芝化」への多くの反対の声が上がっています。中野区に、同校に関わる保護者、関係者、地域の要望に耳を傾けること、校庭の仕様を「人工芝にしない」ことを要望いたします。

(理 由)

現在、中野区は、小中学校の施設再整備に際し、一律の「校庭の人工芝化」を進めています。同方針は、区として平成28年に一足制の検討を開始し、それに伴い校庭は人工芝に限定される事となったものです。しかしその後、気候変動、環境意識の変化、新型コロナ等の重大な感染症対策の必要性など、新たな知見が明らかになると共に、児童の教育環境として人工芝と一足制の様々なデメリットが明らかになってきました。さらに、中野区もコミュニティスクール制度の導入、シビックプライドの醸成を提唱するなど、「地域全体で育てる子ども」「地域への誇りと愛着」といった意識が高まる中、地域の拠点の校庭が人工芝化されることで生じる、地域活動の阻害も懸念されています。以下に主な懸念点を挙げます。

- 人工芝は夏にはサッカーのスパイクが溶けるほど高温になる。熱中症の危険が増し、校庭で遊べない日が増える。これは直接、子どもの健康・体力の育成に関わる懸念となる。酷暑化のこの時代に人工芝の校庭は望ましくない。
- 人工芝の特性から課される、「火気厳禁、負荷厳禁（自動車・自転車の乗り入れ、櫓の設置など）、飲食禁止」といった制約は、子どもの為に地域が続けてきた、盆踊り、おやじの会のキャンプファイアなどを始め、様々な行事を中止・縮小に追い込みます。中野区は一人当たりの公園面積が23区ワースト2であり、ことに桃二地域は周辺の代替地に恵まれず、校庭を貴重な場として子どもに様々な体験を提供してきました。人工芝化に伴う制約は子どもの育ちに大きな弊害となります。「子育て先進区」にふさわしい判断を求めます。
- 土足で校舎内で過ごす一足制の不衛生さ。感染症の流行・感染拡大時に校舎に入る際に手指消毒を義務付ける中、土足で校舎内に上がる一足制は衛生・防疫の点で、二足制に比べ逆行している。雨の日に濡れた靴の替靴の必要、校舎内が濡れて滑る危険、土足が持ち込

む汚れの清掃など、他のデメリットも多岐にわたります。

- ・平時からの想定と訓練が重要な防災において、人工芝では使用上の制約から各種車両の乗り入れができず、発災時の想定と同じ事を行う防災訓練ができなくなる。日常の防災訓練の効果を著しく減じ、実際の災害時には混乱を招き、人命を含めた大きな支障となる懸念があります。
- ・中高生なら「グラウンド」で事足りるかもしれないが、小学生の年齢では、土いじりや地面に絵を描くなど校庭の使い方は多様。人工芝は一輪車や竹馬も禁止となる等多くの制限が課せられる。露地が少ない中野区において、自由な遊びにより創造性が育まれるべき小学校の校庭に、人工芝は相応しくありません。
- ・人工芝は、環境・健康面で有害な大量のマイクロプラスチックを生み、子どもの健康面に直接的な懸念が生じる。さらに定期的な張替えでは人工芝自体が大量のプラスチック廃棄ゴミとなる。国際的な環境意識の高まり、脱プラに取り組む潮流、また区の環境方針にも大きく逆行します。
- ・中野区は「高品質・高価な人工芝」を導入予定とのことだが、加えてメンテナンス、高温対策のスプリンクラー設置、水道代、マイクロプラスチック対策、定期的な張替えなど、維持コストが大変に大きい。
- ・中野区は人工芝を推す最大の理由として、中学校での怪我の事例から「転倒時の安全性」をあげるが、小学生の体格や動き、転倒時の衝撃は中学生よりはるかに小さい。現実には即さない過大な「安全対策」のための過大な投資ではないか。

以上の点から、桃園第二小改築にあたっては「人工芝以外」の校庭仕様を要望します。中野区には、既存の計画に固執せず、時代の変化と地域性に応じた「真に子どものためとなる」施策をお願いいたします。